

教師の魅力を高めるために

茨城県教育研修センター 所長 猪瀬 宝裕

2022年12月、県立日立第一高等学校で高校2年生を対象とした「教師の魅力を伝える出前講座」を実施しました。参加した高校生からは、「教師について新たな気づきがあった」「より一層教師を目指したくなった」「どんな職業か知れてスッキリした」等の感想が聞かれ、教職への理解が深まったようです。センターでは、大学生を対象とした教師塾や教職セミナーを実施していますが、教職に就いた人たちの多くが大学入学以前に教師を将来の職業として選択している状況(*1)があることを踏まえ、大学に入る前段階の高校生への関与も重要だとして今年度から始めたものです。

高校生対象の調査(*2)では、将来就きたい職業として「教師」が上位になっており、2021年の調査では2番目に多かったようです。学校生活における教師との接触経験から「あこがれを持った」ことを理由とする高校生が多いそうです。最近では、教師＝ブラックな職業とのイメージもありますが、依然として子どもたちから「あこがれ」の職業として支持される魅力的な職業であることは間違いありません。

どんな教師になるか

教師志望者を増やす取組は、全国の教育委員会や教育センターなどで行われています。本センターでも、教師を志望する全国の大学生等を対象にした「いばらき輝く教師塾」や「教員の魅力セミナー」を開催しています。

教師塾Ⅰ期の参加者に、教師の仕事ぶりを実際に見た感想を尋ねると、「大変そう」「忙しそう」と、仕事の大変さを実感した一方で、「楽しそう」「やりがいを感じる」「生き生きしている」「すごい」など、仕事にやりがいがあることや、教師の生き生きとした姿、すごさに魅力を感じたようです。教師塾Ⅱ期については、「いばらき輝く教師塾修了生特別選考」に出願できるため、参加者が増えてきています。センターでは、教師塾を単なる教員採用選考試験への近道とするのではなく、「将来、どんな教師になるのか」「なりたい教師はどのような教師か」を、参加者とともに考えていく機会にしたいと思って取り組んでいます。そのため、主体的な参加が求められる協議や演習を多くした実践的な内容とし、教師塾の「質」を確保しています。参加者が、実際の教師の仕事を研究しながら自分の想いを明確にすることで、しっかりとした教師像を描き、自信を持ってチャレンジしていくことができれば、職に就いてからも求める教師像に向かって努力する「学び続ける教師」になれると考えています。実際、受講後の感想に、「目標が教師になることではなく、どんな教師になるかに変わった」という記述が見られ、担当者を感じさせました。その他にも、「理想の教師像が明確になった」「教師として子どもたちに貢献したい気持ちが強くなった」などの感想があり、参加者は教師に対するあこがれや希望から一歩踏み込んで、「私はこんな教師になりたい」

という具体的な教師像を描いて、教師になりたい思いを強くしてくれたように感じます。

教師の魅力は何か

教師塾や教職セミナーなどを実施する際には、職務(職責や校務、授業、子どもたちとの関わりなど)だけでなく、待遇などの様々な面(給料、休暇、勤務時間、福利厚生など)からも教師の魅力をしてできるだけ幅広く伝えるようにしていますが、教師を目指そうと考えている参加者の教師に対する思いは、待遇面を前提としつつも教師の職業としての魅力に向かっているように感じます。

教師塾Ⅱ期参加者に「教師の魅力」についてアンケートをしたところ、「子どもたちと一緒に成長できる」「子どもたちの成長に寄り添える」など、子どもたちの成長に関わり、自分も一緒に成長できることを教師の魅力と考える意見が最も多く、「やりがいがある」という意見も多数見られました。このように、教師を目指す人たちは、子どもたちとの出会いと関わりのすべてが教師の魅力と感じているように思います。

また、新規採用者の研修第1日目に、自分が目指す「教師像」を尋ねたところ、「信頼される教師」「子どもに寄り添える教師」「指導力のある教師」などの意見が多く見られました。様々な試練を乗り越え見事教師になってまだ2週間という時期、もしかすると理想と現実のギャップに直面しながらも、子どもたちを第一に考え、子どもたちからの全幅の信頼のもと、成長を支えともに成長できる教師ならではの営みを「教師像」として抱いているように思います。教師の魅力は、子どもたちと関わる教職という仕事の中にあると言えそうです(*3)。

教師が子どもたちの人生に深く関わり、場合によっては子どもたちの人生を変えるかもしれないとすれば、教師という大人との出会いは実に大きな意味を持ちます。教師は、子どもたちと関わる一日一日を、その瞬間瞬間を、真剣に正面から向き合って、教師という職業を全うしています。時に大変で、忙しくて、辛くて、悲しくて、でも、時に楽しくて、うれしくて、喜んで、といった毎日の子どもたちとの関わりすべてが教師の魅力なのでしょう。教師の魅力は、その営みのなかにあります。

魅力ある教師へ

このように、教師の魅力が子どもたちの成長に関わり、自分も一緒に成長できるという教師ならではの仕事にあるとするならば、教師自身は、子どもたちにとって「魅力ある教師」でなければならないでしょう。教師には、不断の資質・能力向上の努力が求められ、そしてセンターには、研修を通して教師の魅力を確実にするとともに、魅力ある教師を育成することが求められています。センターの研修では、教師の魅力を支える授業づくりや学級づくり、子どもたちや保護者などとの関わりを研修の中心に据えて資質・能力の向上を図っています。それによって子どもたちを幸せにする、笑顔にする魅力ある教師を育成するとともに、教師自身も魅力や面白さ、やりがい等を実感し、達成感や充実感につながられるよう取り組んでいます。

教師に必要な資質・能力としては、使命感や責任感、教育的愛情、教科教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力などが挙げられます。センターでは、子どもたちの成長に寄り添い、ともに成長していく、魅力ある教師を目指していただきたいとの思いから、「信頼」と「愛情」を大切にして子どもたちに接して欲しいとお伝えしています。

信頼—子どもたちを信頼し期待する教師

新規採用者や大学生が描く理想の教師像としては、子どもの頃に自分が出会った教師をイメージしているためか、「子どもたちから信頼される教師」であることが多いようです。しかし、実際に教師となったのであれば、「子どもたちを信頼する教師」であって欲しいとお伝えしています。それは、教師が子どもたちを信頼してこそ、子どもたちから信頼される教師になれる、と考えるからです。

子どもたちから信頼される教師とは、子どもたちを信頼し期待し続ける教師です。たとえ、期待通りにいかなくても次を期待し、子どもたちのために何とかしようとする原動力、エネルギーこそ、教師の「子どもたちへの信頼」ではないでしょうか。子どもたちは、いつか、できるようになり、分かるようになり、自己有用感、達成感を感じて、自ら走り出す日が来る。教師は、そのような子どもたちの姿を思い描きながら、今日も子どもたちを信じ、子どもたちに期待しています。教師は、「100回期待外れだったとしても、101回目にやってくれるかもしれない」と、子どもたちに期待し続けます。101回目に本当にやってくれたら、これまでの100回の期待外れは帳消しになって、「よかった」といういい思いが癖になり、また、期待してしまう。その繰り返しですが、大変ではありますが教師の面白いところであり、教師の魅力となっているのではないのでしょうか。子どもたちの成長に寄り添う、子どもたちと一緒に成長できる、という教師の魅力は、「教師の子どもたちへの信頼と期待」が作り出しているのです。

子どもたちを信じることは、教師自身を信じることです。割に合わないこともあるかもしれませんが、子どもたちを信じ続け、子どもたちに期待し続ける、そして、子どもたちと一緒に成長する、教師ならではの魅力はそこにあると思います。

愛情—教育は愛情の連鎖でできている

教師が、日々関わっている子どもたち一人ひとりには、その子を大切に思う人がいます。教師は、その子を大切に思う人と同じ気持ちで、大切に、大事に子どもたちに接して欲しいと思います。実は、今この瞬間にも、私たちの大切にしている子どもや家族が、誰かに大切にされているはずで、私たち教師は、私たち自身が愛され、支えられ、大切にされてきたように、目の前の子どもたちを大切にします。教育は、そうした愛情の連鎖でできています。

子どもたち一人ひとりを、愛情をもって大切に扱うからこそ、教師は厳しくも温かい指導ができるのです。子どもたちの話を聞くこと、話すこと、ほめること、励ますこと、心配す

ること、見て見ぬふりをしないこと。これらはすべて教師が子どもたちを大切に思っているからこそ関わっていく、魅力ある教師の姿ではないでしょうか。教師が子どもたちを大切にすする気持ちから発する言葉や行動は、必ず子どもたちに伝わると思います。教育は、教師の人間性を通して子どもたちに伝わっていきます。教育は、教師の人間性の先にあります。そして、教師が子どもたちを大切にすれば、きっと、子どもたちもお互いを大切にようになります。愛情の連鎖は、子どもたちも巻き込んで続いていくことでしょう

教師の魅力を高め続けるために

「令和3年度公立学校教職員の人事行政状況調査」によれば、教育職員の精神疾患による病気休暇者数は5,897人(全教育職員数の0,64%)で、令和2年度から694人増加し過去最多となっています。今年度も多くの新規採用者が念願の教職に就き、不安と期待を抱きながら教師の道を歩み始めました。しかし、実際に教師になってみると、授業の準備や片づけ、提出物や成績の処理、事務作業、部活動など、想像以上の仕事の多さに直面して、大変だという声も聞かれます。魅力ある教師には、「信頼」と「愛情」を大切にしながら子どもたちの成長に向き合うことが重要ですが、それだけでは、教師が疲弊し魅力が損なわれる恐れがあります。長時間勤務や教師不足の問題など、学校や教師をめぐる様々な問題の改善なくしては、教師の魅力が輝きを放つことはできないでしょう。

私たちセンターは、採用されて念願の職に就いた教師に寄り添いながら、研修の機会を通して資質・能力を身に付けた魅力ある教師に導くとともに、教師の魅力を本当に魅力的なものだと実感してもらえよう努力してまいります。

【文献】

- *1 令和3年度「教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」教職の魅力向上に関する取組の推進 教職課程を置く大学等に所属する学生の教職への志望動向に関する調査報告資料、株式会社浜銀総合研究所
(<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/content/000181535.pdf>)
- *2 第10回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2021年、「一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート調べ」
(https://souken.shingakunet.com/research/.assets/2021_hogosya3.pdf)
- *3 ベネッセ 第5回学習指導基本調査(小学校・中学校版) [2010年]、157頁
(https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/shidou_kihon5/sc_hon/pdf/data_15.pdf)

*本稿は、『教育と医学』2023年3・4月号所収論稿を一部改変したものである。